

第2学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「【じょうほう】メモをとるとき」 教材名「【じょうほう】メモをとるとき」

2 単元の目標

言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気づくことができる。（〔知識及び技能〕(1)ア）

経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすることができる。（B(1)ア）

知らせたいことを選ぶため、経験した事柄を短い言葉でメモする学習の中で、言葉への関心をもち、自分の取り組みを見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①言葉には、事物の内容を表す働きがあることに気付いている。（〔知識及び技能〕(1)ア）	①「書くこと」において、経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。（B(1)ア）	①知らせたいことを選ぶため、経験した事柄を短い言葉でメモする学習に進んで取り組み、友達の反応や自分の記録を確かめながら、言葉の使い方や捉え方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

知らせたいことを選ぶため、経験した事柄を短い言葉でメモする。この教材では、経験の材料メモと、その中から選んだ伝えたいことを残し、言葉をどう使ったか、どう捉えたかが分かるようにする。

(2) 児童について

（学級の子どもの様子を先生が書く）

(3) 指導について

経験を口述しながら教師と短い語にする。記号や絵も使い、本人が後から内容を思い出せるか確かめる。想定する難しさは、メモをきれいな文章にすることに集中し、必要な事柄を残せない。評価では、経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしているかを、経験の材料メモと、その中から選んだ伝えたいことと活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

5 指導と評価の計画（全3時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○誰に何を伝えるかを確かめ、書く材料や最初の文を出す。 学校で経験した出来事を話し、時・場所・したこと・気付いたことを短い語で記録する。	学習状況を見て支援する。
第2次	2 （本時）	○学校で経験した出来事を話し、時・場所・したこと・気付いたことを短い語で記録する。メモから友達に内容を説明し、足りない材料を加えて伝える中心を選ぶ。	思①（発言・活動中の記録・作成物）
第3次	3	○読み手が受け取った意味を確かめ、自分の意図と違った箇所を選んで直す。残した表現にも理由をもつ。学習前後の記録を比べて、確かめたことをまとめる。	態①（学習前後の記録と見直しの理由）



6 本時の指導 (2/3)

(1) 本時の目標

経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にすることができる。(B(1)ア)

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	誰に何を伝えるかを確かめ、書く材料や最初の文を出す。 ○「あとで文章にするために、どのことをメモに残しますか」 【めあて】知らせたいことを選ぶため、経験した事柄を短い言葉でメモする。 〈予想される児童の反応〉 ・全部の文を書かなくてもメモから思い出せる。	最初の言い方や記録を残し、授業後の考えと比べられるようにする。正答を先に示さず、扱う言葉と課題を確認する。
展開 (分)	○「あとで文章にするために、どのことをメモに残しますか」 学校で経験した出来事を話し、時・場所・したこと・気付いたことを短い語で記録する。メモから友達に内容を説明し、足りない材料を加えて伝える中心を選ぶ。 読み手が受け取った意味を確かめ、自分の意図と違った箇所を選んで直す。残した表現にも理由をもつ。 〈予想される児童の反応〉 ・全部の文を書かなくてもメモから思い出せる。 ・したことと気持ちを分けて残したい。	経験を口述しながら教師と短い語にする。記号や絵も使い、本人が後から内容を思い出せるか確かめる。 想定する難しさ：メモをきれいな文章にすることに集中し、必要な事柄を残せない。 評価では、経験したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしているかを、経験の材料メモと、その中から選んだ伝えたいことと活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。 ◎思① 経験したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして、伝えたいことを明確にしている。(発言・活動中の記録・作成物)
まとめ (分)	【まとめ】問いへの答えを、今日確かめた言葉や表現を含めて話す。 経験の材料メモと、その中から選んだ伝えたいことを見返し、初めと変わった点や、そのまま残した理由を確かめる。 〈予想される児童の反応〉 ・したことと気持ちを分けて残したい。	教師のまとめを写すだけにせず、本人が選んだ言葉と理由を確かめる。態度は本時だけで決めず、単元を通した取り組みと調整の記録を合わせて判断する。 ◎態① (最初と最後の記録、見直しの理由)

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

縦書きで、右から左へ学習の流れを配置する。右端に題名とめあて、その左に問い「あとで文章にするために、
どのことをメモに残しますか」。中央は、経験の材料メモと、その中から選んだ伝えたいことに必要な言葉・材
料と、考えた理由を対応させる。本文を扱う場合は先生が手元の教科書から必要な範囲を示す。左側に比べて気
付いた点と見直した箇所、左端に本時で確かめたことを置く。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

